

令和7年度
発生予察情報

発生予報第7号（概要版）

令和7年8月1日発行
宮城県病害虫防除所
(TEL:022-275-8982)

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
水稻	いもち病 (穂いもち)	発生量: やや少	紋枯病	発生量: 平年並
	斑点米カメムシ類	発生時期: 早い 発生量: 多	—	—
大豆	紫斑病	発生量: 平年並	アブラムシ類	発生量: 平年並
	ウコンノメイガ	発生量: 平年並	吸実性カメムシ類	発生量: 多
	ハダニ類	発生量: 平年並	フタスジヒメハムシ	発生量: 平年並
	マメシンクイガ	発生量: 平年並	—	—
りんご	褐斑病	発生量: 多	斑点落葉病	発生量: やや多
	果樹カメムシ類	発生量: 多	キンモンホソガ	発生量: 平年並
	ハダニ類	発生量: 平年並	—	—
なし	黒星病	発生量: 平年並	果樹カメムシ類	発生量: 多
	ハダニ類	発生量: 平年並	—	—
いちご	うどんこ病	発生量: 平年並	炭疽病	発生量: 平年並
	ハダニ類	発生量: やや多	—	—

発生予報第7号の他に以下の情報を発行しています。

- ・防除情報 第5号 りんご・なし「果樹カメムシ類」(令和7年8月1日発行)
- ・防除情報 第6号 トマト・ミニトマト「トマトキバガ」(令和7年8月1日発行)

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>
次回、発生予報第8号の発行日は8月26日(火)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
メルマガ
トップページ 登録フォーム

ー8月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月23日～25,28日

定点調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台7月31日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
いもち病 (穂いもち)	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、葉いもちの発生地点率は平年並(/±)、発病株率は平年よりやや低かった。(/ー)
- (2) 上位3葉における葉いもち病斑数は平年並であった。(/±)
- (3) 曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並(/±)、日照時間はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
紋枯病	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。(/±)
- (2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期 (第2世代成虫発生盛期)	発生量
斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ クモヘリカメムシ ホソハリカメムシ)	早い (8月第2半旬:8/6～8/10) (アカスジカスミカメ)	多

予報の根拠

- (1) 定点調査及び有効積算温度シミュレーションの結果、アカスジカスミカメの第2世代成虫発生盛期は平年(8月第4半旬)より早い8月第2半旬と予測される。(ー/)
- (2) 巡回調査の結果、周辺畦畔における斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ及びホソハリカメムシ)の発生地点率は平年より高く、すくい取り虫数は平年より多かった。(/+) また、本田における発生地点率は平年よりやや高く、すくい取り虫数は平年よりやや多かった。(/+)
- (3) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(ー/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

・7月 29 日現在、水稻作付面積の 44.5%の水田が出穂期^{※1}を迎えている。県全体の出穂始期^{※2}は7月 25 日で平年より3日早い。(宮城県みやぎ米推進課 7/30 発表)。

※1 出穂期:ほ場内の 50%以上が出穂に達した時期

※2 出穂始期:水稻作付見込面積の 5%以上が出穂期に達した時期

(2) 穂いもち

- ・上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源になる。葉いもちの発生が確認された場合は速やかに茎葉散布剤を散布する。
- ・茎葉散布剤を使用する場合は、ほ場をよく観察し、1回目を出穂直前、2回目を穂揃期に実施する。
- ・直播栽培では、移植栽培より生育ステージが遅く、全般に葉色が濃く推移しやすいことから、葉いもちが発生しやすく、穂いもちに移行しやすい傾向があるので、茎葉散布剤による防除を実施する。

(3) 紋枯病

- ・多発が予想されるほ場では、穂揃期に追加防除を実施する。

(4) 斑点米カメムシ類

- ・注意報第3号(7月 19 日発表)を参照。

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/chuiho3hanntenmaikame.pdf>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

—8月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:7月23～25, 28日

天候予報:仙台管区气象台7月31日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
紫斑病	—	平年並

予報の根拠

- 前年の子実調査の結果、発生量がやや多かったことから、伝染源量はやや多いと推測される。(/+)
- 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類 (ジャガイモヒゲナガアブラムシ)	—	平年並

予報の根拠

- 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生頭数は平年並であった。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ウコンノメイガ	—	平年並

予報の根拠

- 巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/±)、葉巻数は平年よりやや少なかった。(/-)

病害虫名	発生時期	発生量
吸実性カメムシ類	—	多

予報の根拠

- 巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く(/+)、寄生頭数は平年より多かった。(/+)
- 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	平年並

予報の根拠

- 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低く、寄生頭数は平年よりやや少なかった。(/-)
- 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
フタスジヒメハムシ	—	平年並

予報の根拠

- 巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/±)、寄生頭数は平年よりやや少なかった。(/-)

病害虫名	発生時期	発生量
マメシクイガ	—	平年並

予報の根拠

- 前年の子実調査の結果、発生量が平年並であったことから、越冬量は平年並と推測される。(/±)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず

発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・大豆の生育ステージをよく確認し、各病害虫に対して適期防除を行う。
- ・べと病及び土壌伝染性病害(茎疫病、黒根腐病)の発病を防止するため、明きょ等の補修・点検を行い、排水対策を徹底する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は、『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

(2)紫斑病

- ・大豆の生育ステージをよく確認し、開花期の20～40日後に1～2回薬剤防除を実施する。
- ・QoI剤に対する感受性低下菌の発生が確認されているので、薬剤の効力低下が懸念される場合は、他系統の薬剤の使用を検討する。

※普及に移す技術第99号参考資料「ダイズ紫斑病のQoI剤に対する薬剤感受性の低下」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/r05sankou20.pdf>

※普及に移す技術第97号指導活用技術「ダイズ紫斑病のアズキシストロビンに対する薬剤感受性低下」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/r3hukuuugi25.pdf>

(3)アブラムシ類(ジャガイモヒゲナガアブラムシ)

- ・例年、8月下旬～9月上旬に密度がピークに達するので、多発した場合は防除を徹底する。
- ・防除後も密度が低下しない場合や、急激に密度が高まった場合には、薬剤の種類を変えて追加防除を実施する。

(4)ウコンノメイガ

- ・ほ場内の葉巻率又は葉巻数を確認し、要防除水準を参考に防除適期の8月上旬に速やかに薬剤防除を実施する。
- ・大豆におけるウコンノメイガの要防除水準は、8月第半旬の被害程度から減収率を予測することができる。被害許容水準を5%と設定した場合、8月第1半旬の葉巻率1.6%、又は大豆1本当たりの葉巻数1.3個が要防除水準となる。(「普及に移す技術」第90号)

(5)吸実性カメムシ類

- ・開花期以降に発生が見られるほ場では、着莢期から子実肥大中期を重点に2回以上薬剤を散布する。
- ・今後の発生が多くなると予想されるので、ほ場の発生状況に注意し、適期防除を実施する。
- ・越冬地(雑草地、山林等)付近では発生が多くなるおそれがあるので注意する。

(6)ハダニ類

- ・突発的に集中発生することもあるため、ほ場をよく観察し多発した場合は防除を実施する。

(7)フタスジヒメハムシ

- ・第2世代成虫の発生盛期(平年:8月下旬～9月上旬)に薬剤散布を実施する。

(8) マメシクイガ

- ・発蛾最盛期とふ化盛期(8月下旬とその7~10日後の9月上旬)にかけて1~2回薬剤を散布する。
- ・連作ほ場や前年の発生が多かったほ場では、より効果の高い薬剤を選定する。

(9) 食葉性チョウ目幼虫(オオタバコガ、ツメクサガ等)

- ・中齢幼虫以上になると葉及び莢を加害し、被害が大きくなるので、早期発見・早期防除に努め、若齢幼虫期に薬剤防除を実施する。
- ・突発的に集中発生することもあるため、ほ場をよく観察し多発した場合は防除を実施する。

※普及に移す技術第98号参考資料「大豆栽培におけるタバコガ類に対するフルベンジアミド水和剤の防除効果」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/22r04sankou11.pdf>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL: 022-275-8982 FAX: 022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー8月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月 23～28 日

天候予報:仙台管区气象台7月 31 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年より高かった。(/+)
- (2)気温 20～25℃で多雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ー～±)、降水量はほぼ平年並と予報されている(/±)。

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は、徒長枝で平年よりやや高く新梢で平年並だった(/±～+)。発病葉率は、徒長枝で平年よりやや低く新梢で平年よりやや高かった(/ー～+)。発病果は確認されなかった(/ー)。
- (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
果樹カメムシ類	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び被害果率は平年より高かった。(/+)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
キンモンホソガ	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、被害葉率は平年並であった。(/±～+)
- (2)20～25℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ー～±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年並だった(/±)。1葉当たりの寄生頭数は、ナミハダニは平年並でリンゴハダニは平年よりやや多かった(/±～+)。
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±): 平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±): 平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は、病害虫の発生源になりやすいことから補完散布するとともに、不要な徒長枝を整理する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・DMI剤(FRACコード:3)、QoI剤(FRACコード:11)及びSDHI剤(FRACコード:7)並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年2回以内の使用とし、連用しない。
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。
- ・薬剤は、『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

(2) 褐斑病

- ・防除情報第3号(6月18日)を参照:

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/bojono3ringokappan.pdf>

(3) 斑点落葉病

- ・徒長枝や二次伸長した新しい展開葉等における発生状況を観察し、防除を実施する。
- ・病勢が一時停滞したように見えても、高温多湿の気象条件が続くと再び病勢が進展するおそれがあるので、計画的に防除を実施する。
- ・不要な徒長枝等を取り除き、伝染源を減らすとともに薬剤が樹木全体に行き渡るよう管理する。

(4) 果樹カメムシ類

- ・防除情報第5号(8月1日発表)を参照。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/r07yosatsu.html#bojojoho>

(5) キンモンホソガ

- ・現在発生している成虫は新梢葉を主体に産卵するため、新梢葉での発生状況に注意する。
- ・徒長枝にも多く寄生するため、不要な徒長枝は整理する。

(6) ハダニ類

- ・ほ場をよく見回り、ハダニ類が1葉当たり3頭以上寄生している場合は防除を実施する。
- ・一部殺ダニ剤で効果が低下している事例がある。また、薬剤によっては寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合があることから、発生状況をよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。

農薬危害防止運動実施中！

《お問い合わせ先》
宮城県病害虫防除所
〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429
E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp
★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー収穫期までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査: 7月 23～28 日

天候予報: 仙台管区气象台7月 31 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は、果そう葉で平年並で新梢葉で平年よりやや低かった(/ー～±)。発病葉率は平年並だった(/±)。果実調査では、発生地点率は平年並で発病果率は平年よりやや低かった(/ー～±)。
- (2) 気温 20℃前後で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ー)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
果樹カメムシ類	ー	多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、被害果率は平年並だった。(/±～+)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並で、1葉当たりの寄生頭数は平年よりやや少なかった。(/ー～±)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒して降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。

- ・病虫害の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・品種による収穫期の早晚を考慮し、収穫前日数に注意して薬剤を選定する。
- ・薬剤は、『宮城県農作物病虫害・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

(2) 黒星病

- ・発病部位は伝染源となるので、見つけ次第除去し、ほ場外へ持ち出して土中に埋めるなど適切に処分するとともに、不要な徒長枝を取り除き、薬剤が樹木全体に行き渡るように管理する。
- ・「幸水」は果実肥大後期でも黒星病に感染しやすいため、特に注意する。

(3) 果樹カメムシ類

- ・防除情報第5号(8月1日発表)を参照。
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/r07yosatsu.html#bojojoho>

(4) ハダニ類

- ・一部殺ダニ剤で効果が低下している事例がある。また、薬剤によっては寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合がある。よってそれらをよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。
- ・発生の多いほ場では、薬剤防除等によりハダニ類の密度を低下させ、翌年の発生を抑えることが重要である。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

1. 農薬容器のラベルをよく読みましょう
2. 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
3. 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
4. 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

—8月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:7月22日

天候予報:仙台管区气象台7月31日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	—	平年並

予報の根拠

(1)巡回調査の結果、発生地点率はやや高く(/+)、発病株率は平年並であった。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
炭疽病	—	平年並

予報の根拠

(1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年よりやや低かった。(/-)

(2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	やや多

予報の根拠

(1)巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/±)

(2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず

発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- 適切な肥培管理及び予防防除を徹底し、健苗育成に努める。
- いちごの農薬使用回数は、親株からランナーを切り離れた時点から収穫終了までとなる。
- 本ぼの初期病害虫発生原因の多くは育苗からの持ち込みであるので、親株・育苗期間中もしっかり防除を行う。
- 施設周辺及び施設内の雑草は害虫の発生源なのでほ場周辺の除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。
- IPM体系による防除は下記を参照する。

※宮城県いちご IPM マニュアル 2019年版 https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/ichigo-ipm.html

- 定植後に天敵製剤や訪花昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して使用薬剤を選択する。

・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

(2)うどんこ病

- ・最初に葉裏に発生しやすいので、こまめに葉裏を観察して早期発見に努め、発生初期に防除を実施する。
- ・夏季の高温で発病が一時減少するよう見えるが、菌糸で越夏し、気温の低下とともに蔓延するので、きちんと予防防除に努める。

(3)炭疽病

- ・発病株は伝染源となるので、ほ場内をよく見回り、見つけ次第早急にその周辺の株も含め抜き取り、適切に処分する。
- ・水滴の跳ね上がり等で伝染するので、育苗ほでは可能な限り頭上かん水は避け、かん水チューブや底面給水等によりかん水を行う。また、葉の濡れ時間が長くないよう遅い時間のかん水は避け、日没までに水滴が乾くよう実施する。
- ・高温多湿は病原菌の増殖に好適であるとともに、苗が軟弱になり炭疽病にかかりやすくなるとされるので、ハウスの排水対策を徹底する。また、遮光率の高い遮光資材はかけっぱなしにせず必要に応じて開閉し、ハウス内の日照量を増やすなどして健苗育成に努める。
- ・予防散布の徹底が重要であり、薬剤抵抗性の発達を防ぐため RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、QoI 剤 (FRAC:11) や MBC 剤 (FRAC:1) の耐性菌が、県内の広い範囲で確認されているので留意する。

※「普及に移す技術」第 100 号参考資料「宮城県内におけるイチゴ炭疽病菌の薬剤耐性」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/60672/r06sankou13.pdf>

(4)ハダニ類

- ・気門封鎖剤は、対象害虫にかかると効果が得られないため、植物体全体にムラなく散布するとともに、薬害が出やすいため、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認する。
- ・スピロテトラマト水和剤の灌注処理を行う際は、薬剤をイチゴ苗に十分吸収させるため、灌注処理前の灌水は控える。灌注処理を行う際は、水圧は弱めにし丁寧に行う。
- ・ほ場により効果が低下している殺ダニ剤があるため、薬剤の選定に留意し RAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL: 022-275-8982 FAX: 022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム